

## 令和5年度 第2回二宮町町民活動推進委員会 議事録

日 時：令和5年8月28日（月） 18：30～19：50

場 所：二宮町役場 第1会議室（ハイブリッド形式）

出席者：馬場委員、米田委員、高見委員、志賀委員

【オンライン】手塚委員長、大河原副委員長、小林委員

欠席者：山岡委員、豊田委員

事務局：地域政策課3名

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

（委員長）コロナ禍が明けて市民活動が活発になってきたのを見受ける。インボイス制度も始まり、規模の小さい団体でも影響が出てくる場合があるので、サポートしてあげたかと思っている。暑い中の活動、健康に留意していただきたい。

### 3. 議題

#### （1）「町民活動団体现場確認報告」について

・「みんなの一色子ども食堂（食堂部門）」について事務局より報告

（委員長）子ども食堂もどんどん賑やかになってきた。フードパントリーだけではなく会食形式の団体が増えてきている。この団体は以前よりやられているので見守ってきたい。

・「もりびとNOA」について馬場委員より報告

（委員長）イベントには子ども7名とその家族が参加していたと報告書の説明があったが、参加者の家族、スタッフやボランティアを合わせて30名となるとイメージするボリュームが違うので、そのような表記にしてほしい。

・「みんなの一色子ども食堂（0円ショップ部門）」について大河原委員より報告

（委員長）民間でできるギリギリのところであり、貧困対策に繋がるかと言われると、そうでもない場合もあるが、たくさんの方たちがこの活動に従事しており、いろいろな報告を受けている。

（委員長）二宮町にある公的な広報方法としては何があるのか。

（事務局）町広報紙と掲示板が90か所ほどある。また、町のホームページに電子広報板というものがある。

（委員長）その広報ツールを団体が活用しないと勿体ない。広報方法が示されている要綱を団体に渡すと良い。

(事務局) 補助金交付団体で掲示板を利用している団体は多数ある。

(委員) みんなの一色子ども食堂だが、資金面で苦勞されているかと思うが、団体は何か言っていたか。

(事務局) 食材を集めるのが困難であると聞いているが、今回、政府の備蓄米の交付を受けることが決まった。食育に係るものであれば 400 kgまで無償で受けられるところ、240kgの申請をして交付が決まったと聞いている。

(委員) 全国的にある子ども食堂の制度はセーフティーネットになっているのだろうか。

(委員長) この事業が始まった当初、例えば「週に1回食事を提供する」「月に1回食事を提供する」といったやり方で、『団体はやりたい事だけやっている』と見られていた時代があった。食品ロスの削減にはなるが、貧困や困窮へのアプローチは民間ではなかなかできないので、政府・行政の役割として制度的な考えが必要になってくると思う。

## (2) 「二宮町町民活動推進補助金交付要綱の改正」について事務局より説明

- ・「ステップアップ支援」交付回数を「スタート支援」交付の有無に関わらず、最大3回迄の交付へ
- ・様式第3号『補助金計画書「スタート支援」』の簡素化

(委員長) 計画書が1枚に収まらなかった場合は、どうなるか。

(事務局) 記載が増えることにより、ページが増えることは問題ない。

(委員長) 文字数制限はあるか。

(事務局) 制限は設けていない。

(委員) スタート支援1回、ステップアップ支援3回交付の改正には賛成する。

ステップアップ支援は自立に向けてのものなので、4年目にどうなったかという報告を義務にしてはどうか。

更に、交付終了して3、4年経過したところで、「その後どうしているのか」といった話す場、座談会を開いてはどうか。良い参考になると思う。

(委員長) 4年目の報告は良いと思う。町民活動ネットワークを組織して補助金を受けた団体が入ってくると知恵が集まる。例えば、自主的に町民活動サポートセンターの運営や手伝いを希望する人が出てくるかも知れない。来年度あたり交流会みたいなものを開催しても良さそうである。

(委員) スタート支援の様式簡素化でSDGsの項目が削除されたが、それは考慮しない方向なのか。

また、改正前の様式ではSDGsの宣言をしていたわけではなく活動内容がどのSDGsの項目に合致するのか、というところを見ていたのか。

(事務局) 活動自体がSDGsのどのゴールに該当するのかを記載してもらっていた。

(委員長) 意識付けのためのものであった。

(事務局) SDGsの項目については、スタート支援の様式では削除するが、ステップアップ支援の様式は残るものである。

- (委員) この2つの改正は町民から要望があったものなのか。
- (事務局) 様式の簡素化については、スタート支援補助金の申請を考えている団体に様式を見せたところ「こんなに書くものがあるのか」と言われたことがある。団体によって記入欄に1～2行で終わるところもあれば、逆にスペースが足らずにページが増える団体もある。
- (委員) 簡素化の件は了解した。そのことを何かしら発信しないと意味が無いので、そこはしっかりとしたい。
- 交付回数の改正については反対である。団体のやる気次第で、1回や2回の補助を受けただけで自立できるところもある。ただ単に補助回数を増やせば良いものでもない。
- また、過去に補助を受けた団体でも、適用されるのかを決めるべきである。
- (委員長) 以前も制度の仕組みを変える時に、古い仕組みで受けた団体は新しい仕組みで何回目の交付になるのかが議論になっていた。
- (事務局) スタート支援を1回、ステップアップ支援を2回、合計3回の交付を受けた団体が3つある。
- 事務局が考えているのは令和6年4月1日からの改正なので、それ以降に申請があった団体に対して補助金交付回数を4回にする予定である。
- (委員長) 補助金申請の説明会は何回ほどやっていたか。
- (事務局) 説明会を開催したことはない。
- (委員長) 説明会をやると聞きにくる団体がいる。平日や土日など数回に分けて実施する自治体もあるので、試験的にやってみても良いかと思う。
- 収支予算書の書き方も分かりやすく手解きをすると良いかと思う。
- スタート支援はもう少しざっくりした書き方で、どのお金を何に充てるのかまでは訊かなくて良いのでは。
- (委員) 今回、スタート支援とステップアップ支援を切り分けることで、活動実績の無い団体はスタート支援からしか申請できないということか。
- また、実績のある団体はステップアップ支援から申請させるのか、もしくはスタート支援から申請させるのか。その制度設計がどうなっているのか。
- (委員長) よくあるのが「設立から2年以内の団体はスタート支援しか申請できない」である。
- (事務局) ステップアップ支援については令和5年4月の要綱改正で設立2年以上が経過している団体を対象とした。
- (委員) 活動実績のある団体が、スタート支援1回、ステップアップ支援3回の上限65万円の補助金が欲しいからということで申請することは良いのか。そこは明らかにした方が良い。
- (事務局) そこまで想定をしていなかったが、私見では地に足が付いた団体はステップアップ支援から使うべきだと思う。あくまでスタート支援は、設立間もない団体が組織固めをする段階で交付を受けるものであると考える。設立から2年が経っていればステップアップ支援から誘導するべきだと思う。

- (委員長) 団体の設立・発足は任意団体だと決まりが無い。活動を始めた日が設立日なのか、会則を作った日が設立日なのかといろいろなパターンがある。どこかで決めた方が良い。
- (事務局) ステップアップ支援の前段階としてスタート支援があるわけだが、他の自治体は線引きをしていたりするものなのか。
- (委員長) スタート支援は設立から2年まで、という自治体は多い。申請をするということは、自分たちの立ち位置を世の中に知らしめるということなので、規則や会則は作らないといけない。そこで改めて組織が出来上がる。
- (事務局) 他の自治体の例を見ながら線引きをするかしないか、また線引きのポイントについては宿題とさせてもらう。
- (委員) 委員長と同じ考えだが、2年位の縛りで丁度良いと思う。
- (委員) 地域で5年、10年と活動している団体が、今後活動を拡大していきたいとか、町全体で活動していきたい、という内容であれば支援したいと思う。「目的」が大事だと思う。
- (委員長) 会則を作る際、単純に「会則を作ってください」と言うと、「会合をする」「イベントを開催する」と書く団体が多い。団体の目的は、イベントをすることで、「地域が仲良くなるとか、健康維持ができる」ということであるため、そういったサポートをしてほしい。
- (委員) 補助金の基本的な考え方として、なにか事業をやる場合、20万円では足りない。「良いことをやっているので年間20万円あげる」という考え方なのか。
- (事務局) 補助金の目的は条例に書かれている。「補助金募集のお知らせ」にも「町民の皆さんが生活する中で直面する様々な課題に自らの意志で取り組む「町民活動」に対して、財政的に支援するものです」と書かれている。20万円の補助を足せばできる活動、という考え方である。
- (事務局) 町民活動は公益というのが最大の目的であり、一部の人の活動が良いことだから補助をする、というものではない。
- (委員長) 全委員で条例の読み合わせ会をやっても良いと思う。
- (委員) 交付上限を超えた団体からの報告の話があったが、補助を1回、2回で申請をやめた団体の話も聞いてみたいと思う。
- (委員長) 交流会の参加を義務とすると難しいかもしれないが、何か集まれる機会があると良い。

### (3) その他

- ・国や県から届く補助金案内の対応について報告。

- (委員) 過去の団体に「現在の活動状況について」などアンケート取るのはどうか。そこに併せて「町からの助成金案内の希望有無」を書いてもらうのも1つの手である。
- (委員長) これから団体が動き始めてくるので、その動きを見ながら支援していけたらと思う。